

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

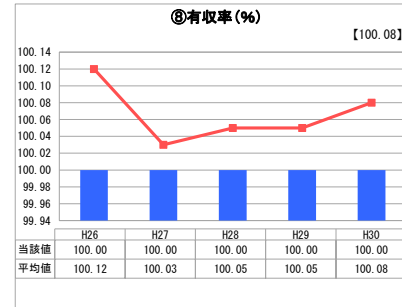
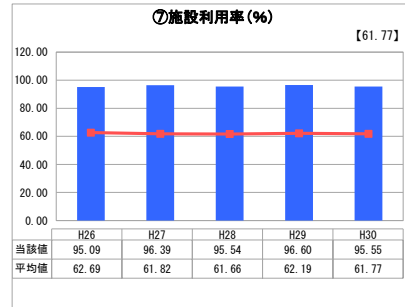
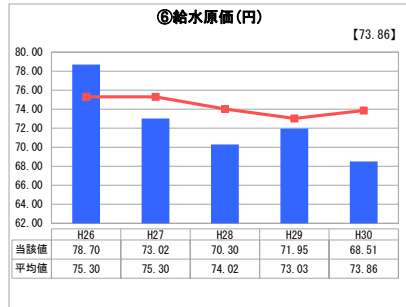
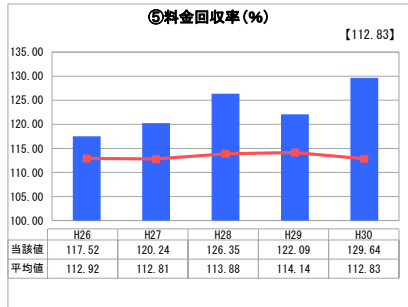
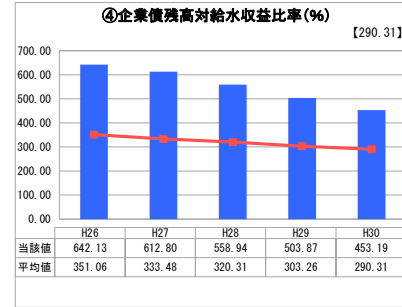
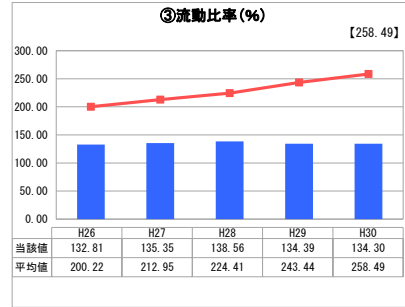
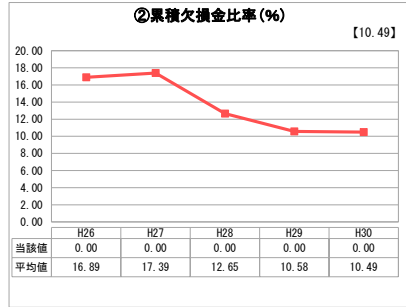
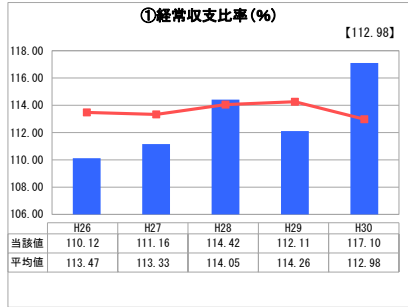
福島県 白河地方広域市町村圏整備組合

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	79.31	95.37	0	

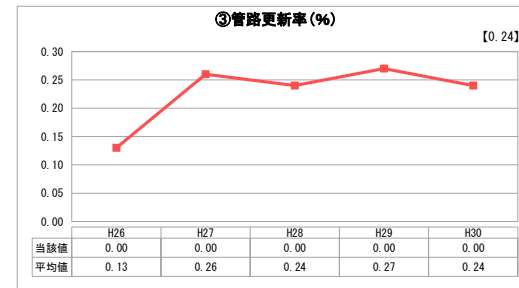
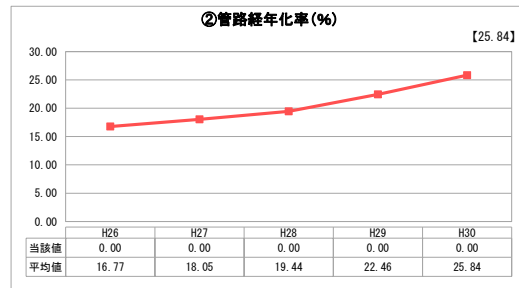
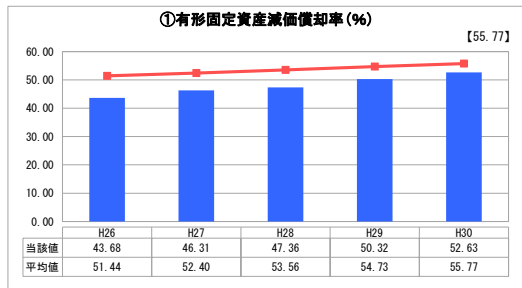
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
118,159	371.75	317.85

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、収支黒字を示す100%以上であることから良好と言える。
- ② 累積欠損金比率は0%であり、欠損金は発生していない。
- ③ 流動比率は、100%以上であるが、全国平均値を下回っていることから、今後、預金の減少に注意する必要がある。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、全国平均値を上回っており、企業債残高が多いことを表している。当組合は平成13年度の供給開始から18年を経過したところであり、全借入額に対する償還済みの割合は64.9%である。
- ⑤ 料金回収率は、供給単価が給水原価を上回っていることから良好と言える。
- ⑥ 給水原価は、前年度比較では下回っており、全国平均値を下回っている。
- ⑦ 施設利用率は、経年比較では95%以上であり、施設が効率的に利用されていると言える。
- ⑧ 有収率は100%であり、当組合の供給条例における責任水量（有収水量＝配水量）によるものである。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、全国平均値を下回っているものの、今後、法定耐用年数を超える施設が増加していくことから、比率の上昇に注意し、施設更新を検討していく必要がある。
- ② 管路経年化率は0%であり、管路の老朽化はみられない。
- ③ 管路更新率は0%であり、管路の更新は行われていない。

### 全体総括

経営の健全性・効率性については、累積欠損もなく、経常損益等の指標からは良好な状態といえるが、短期的な支払能力をみると、預金の減少に注意する必要があるため、今後、一層の経費節減を図り、企業債の償還や施設修繕・更新等を踏まえ、利益の確保に努める。

老朽化の状況については、管路の老朽化はみられないものの、監視制御設備等の更新時期が近づくことから、中・長期的な修繕・更新計画を精査しながら、施設の延命化、適切な維持管理に取り組む。